



○「進路ガイダンス」

県総体女子バスケットの様子⇒

6月7日(火)に三刀屋高校3年生保護者対象の進路ガイダンスを開催しました。分校は、PTA総会の折りに企画していましたが中止となりました。本校も昨年度はガイダンスを中止しています。

冒頭挨拶では、次のようなお話を私からさせていただきました。

「特別支援教育は、障がいのある生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、一人一人の教育的にニーズを把握し、その持てる力を高め…とされています。これを進路指導になぞらえると「就職・進学のための受験を通して自立した大人となるよう、自己実現に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、一人一人の進路希望を把握し、その持てる力(学力・社会力・人間力)を高めるため、適切な指導及び必要な支援を最大限おこなっていく」となるでしょうか。先日お子様に配布した『進路の手引き』でも、進路指導とは、「在り方、生き方に関する指導」と三刀屋高校は考えています…としています。そのためにも保護者との連携が重要と考えています…」



3年学年主任から総体後の3年生の様子などが伝えられたあと、就職担当教員からは、「新卒者だけが持つプラチナチケット」をキーワードに、就職への心構えなどに関する話がありました。

「会社は、新卒枠を設けて採用しているケースが多い。高校や大学などを卒業する新卒者を対象に求人を出してくるということ。新卒者に対する求人は多いが、転職の場合は同じ状況とはならない。(高校3年生の有効求人倍率が約2.4倍[高校生1人に対して2.4社の求人]に対し、一般の有効求人倍率は約1.2倍)高卒で入社すれば40年以上勤めることになるが、残念ながら早期に離職するケースが少なからずある。離職すれば新卒での就職というプラチナチケットはない状況での就職活動となる。自分なりの就職することや社会人になることへの覚悟や心構えがあるかどうか、就職希望者にはしっかり考えて欲しいと思っている。求人票は7月1日から解禁となり、採用する生徒の学校を指定して求人を出す会社などは、7月中に応募前見学を課している場合がある。8月上旬には応募する会社が決まり、中旬からは応募書類の作成がはじまる。9月16日からは就職試験がはじまる。あと3か月後と時間はさほど残されていない…。新卒者だけが持つプラチナチケットを、高卒段階で使うのか、上級学校進学後に使うのか今一度しっかり考えてもらいたい…。ちなみに、公務員試験などは、新卒枠を設けているケースがほぼないが、それだけ関門が狭くなる。」

私は、大学4年生の時、最初は企業入社を考え就職活動をしていました。プラチナチケットをここで使うつもりでした。総合商社に入り海外で働くのを夢見ていたのですが、文学部で経済のことには疎く、英語ができるわけでもなく、なにか理想があるわけでもなく、ただ商社マンはカッコいいくらいの気持ちでした。当然面接でそのあたりを見透かされ、なかなか内定をもらえませんでした。やっと決まった商社も、学歴重視が見え隠れするので、努力が評価されないことへの不安から内定を辞退し、教職の道を選びました。結局プラチナチケットは使いましたが無駄にしました。そして教員採用試験にも失敗。社会人になることへの心構えと覚悟のなさに気づくとともに、就職先がないまま卒業を迎えることで絶望感を覚えました。就職先の選択をファッションの一つくらいの感覚で選んでいた自分を深く反省しました。

進学についての話では、大学入学共通テストなどの入試制度や学費や受験に係る経費の話、行きたい学校をきちんと調べることの大切さなどが話されました。学費などは、「三刀屋高校進路だより」などでも詳しくお伝えしています。

最後に「進路を考える」として、進路(学校)選択の際に、なにを優先順位として高く持つかという話がありました。なにを学びたいかで選ぶのか。つきたい職業を意識して、どの学部・学科がよいか、どんな資格をとりたくて選ぶのか。どの地域に行きたいか、例えば東京に行きたい気持ちを最優先させるのか。学費の面から奨学金制度の充実度や自宅通学できるかどうかで選ぶのか。今の学力でいけるところにするのか、これからがんばって学力を高めても行きたいところにするか…いずれにせよ、自己実現に向けた主体的な取り組みにつながる進路選択をしてもらいたいと思います。